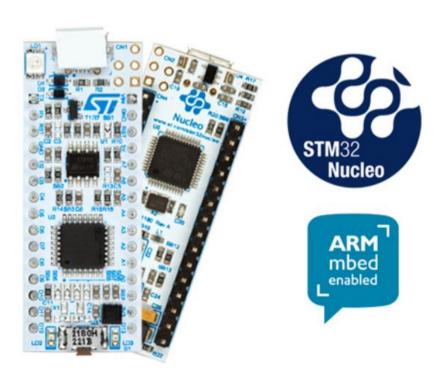
mbedでプログラミング



目次

- mbedとは
- 使用するmbedマイコンボード
- サンプルプログラム書き込み
- PWM制御を使用したモータ速度制御
- PCとの通信

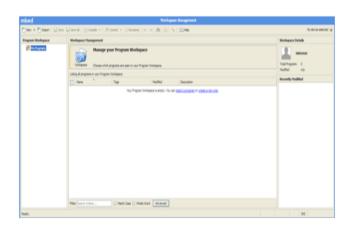
目次

- mbedとは
- 使用するmbedマイコンボード
- サンプルプログラム書き込み
- PWM制御を使用したモータ速度制御
- PCとの通信

mbed(エンヘ゛ット゛)とは・・・

ARM社のプロトタイピング用マイコンボード およびそのデバイスのプログラミング環境





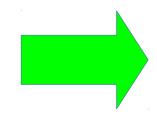
①Web上でプログラム開発ができる

- インストール不要
- インターネットフ・ラウサ・が動けば、OSを選ばない









すぐに動かせる!

①Web上でプログラム開発ができる

- インターネットフ・ラウサ・が動けば、OSを選ばない
- Q. ネットに繋がないと使えない?

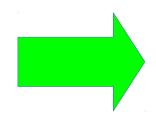
6

A. 使えません。 ただし、開発環境をインストールすればオフラインでも使えます。

17/02/18

②ライブラリが豊富

公式のライブラリから、全世界の開発者が 作成した独自のライブラリまで様々



色々なことを簡単にできる!

③その他

- 開発言語: C++
- マイコン: ARM(高性能で安価)
- ・ 価格:安価(千円台)なボードが増えてきた

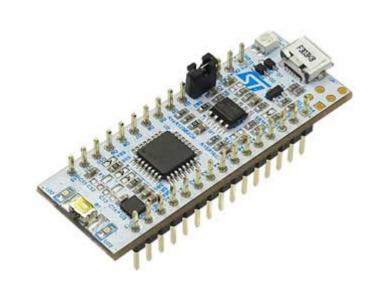
Arduino & mbed

	Arduino	mbed
マイコン	AVR	ARM Cortex~
開発言語	C++ベース	C++
コンパイラ	RVDS	GCC
開発環境	JAVA(インスト要)	クラウド(インスト不要)
価格	2000円~8000円	1000円~10000円
性能	16MHz∼	50MHz~1GHz

目次

- mbedとは
- 使用するmbedマイコンボード
- サンプルプログラム書き込み
- PWM制御を使用したモータ速度制御
- PCとの通信

STM32 Nucleo Board STM32F303K8



※秋月電子で¥1600

小型、安価、高性能

CPU	STM32F303K8T6 (ARM Cortex-M4)
動作周波数	最大72MHz
CPU電源電圧	2.0V-3.6V
フラッシュ	64KB
SRAM	16KB
SPI	1
USART	2
CAN	1
ADC	9
DAC	3
GPIO	25
PWM	13~17

目次

- mbedとは
- 使用するmbedマイコンボード
- サンプルプログラム書き込み
- PWM制御を使用したモータ速度制御
- PCとの通信

①インターネットで"mbed"を検索

mbed

約543,000件

検索ツール ▼

Q mbed or kl25z or ble mbed 入門 mbed オフライン コンパイル で検索

Home | mbed - このページを和訳

www.mbed.com/ - キャッシュ

The ARM® **mbed**™ loT Device Platform provides the operating system, clouc developer ecosystem to make the creation and deployment of commercial, sta utions possible at scale.

mbedを始めましょう! ("Let's get started!" in Japanese) | mbed

developer.mbed.org/users/nxptan/.../lets_get_started_jp/ - キャッシュ

PCにつなぐとmbed基板の真ん中にある青いLEDが光り、PCからは2MBのUSBメ MBED」ドライブがPC上に表示され ... このファイルには、そのmbed のシリアル番 ジへのリンク情報が入っています.

ここを クリック

Japan)

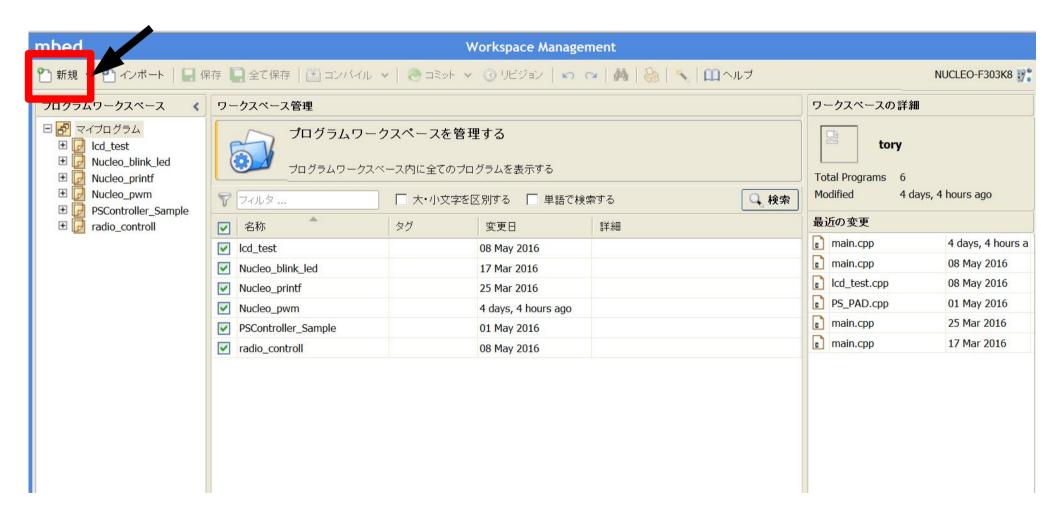
②右上にある"Compiler"をクリック



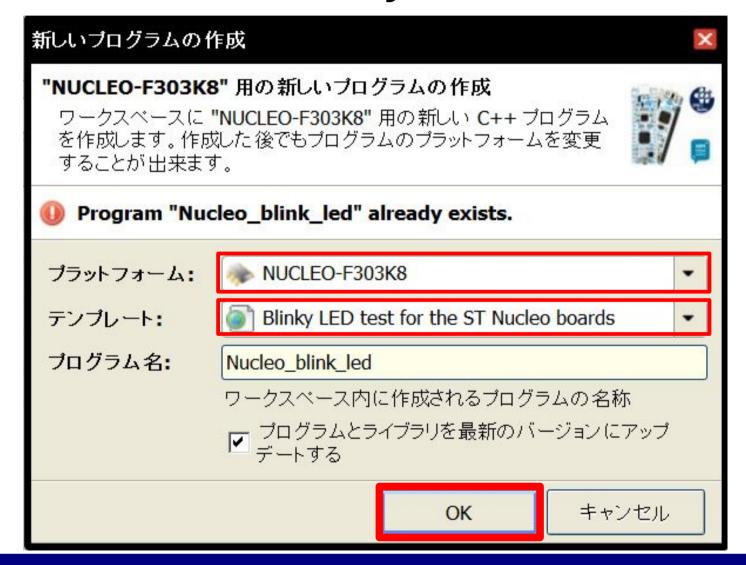
③ログインする



④左上の"新規"→"新しいプログラム"をクリック

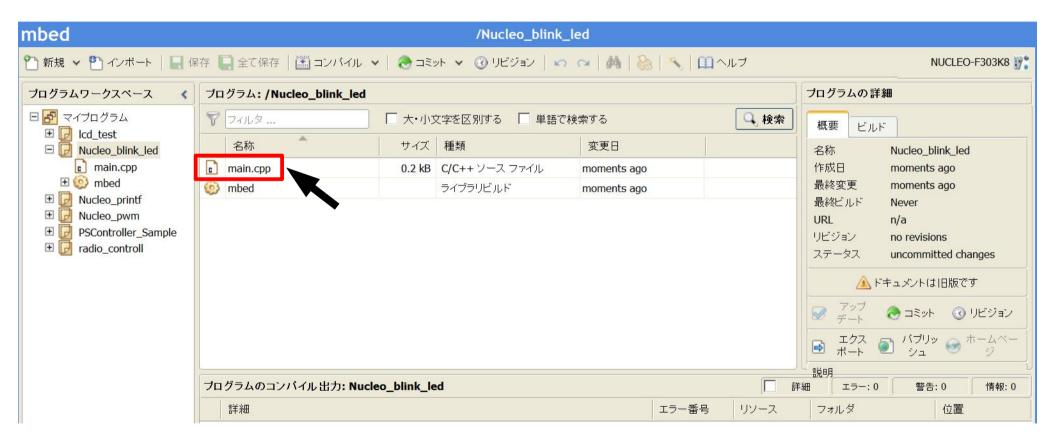


⑤プラットフォーム:NUCLEO-F303K8 テンプレート:Blinkly LED を選択→OK



17

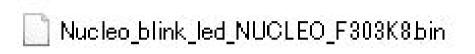
6main.cppをダブルクリック



⑦コンパイルをクリック もしくは Ctrl+D

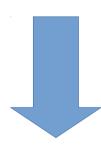
```
🍱 コンパイル 🔻 🗎 🌦 コミット 🔻 🔞 リビジョン
⊋存 □ 全て保存
  main.cpp X
   1 #include "mbed.h"
   3 DigitalOut myled(LED1);
    int main() {
        while(1) {
            myled = 1; // LED is ON
            wait (0.2); // 200 ms
        myled = 0; // LED is OFF
     wait(1.0); // 1 sec
```

⑧~.binファイルをダウンロート、mbedトライブへ保存



2016/06/29 23:10

BIN ファイル



保存(赤緑LED点滅が終了したら書込み終了)



NODE_F303K8 (D:)

空き領域 64.0 KB/72.0 KB

※保存先をmbedドライブに指定しておけば、コンパイルしただけで自動で実行までできます

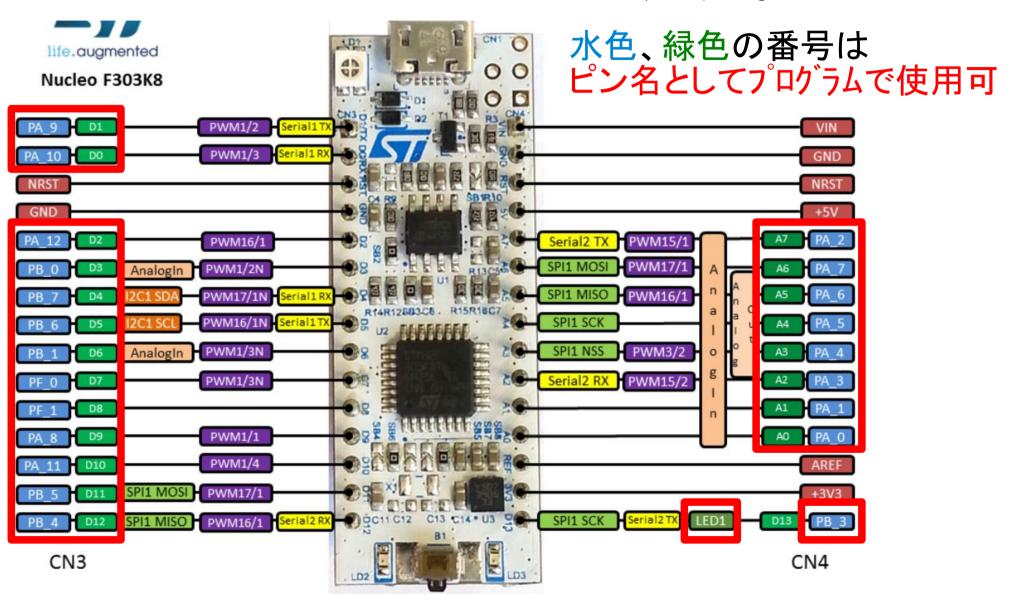
LED点滅プログラム解説

```
#include "mbed.h" ← 必ず必要

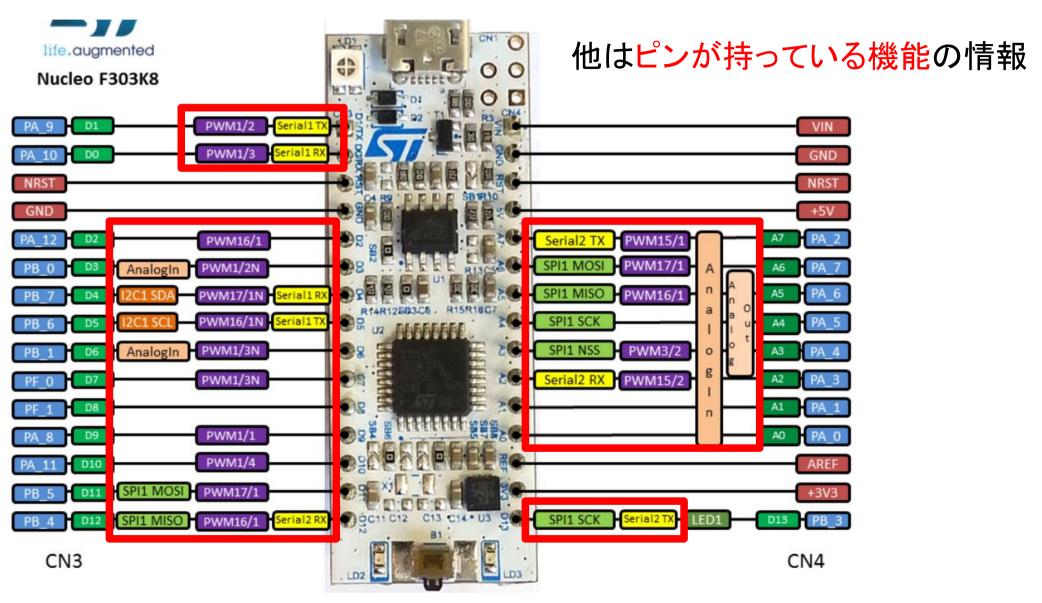
DigitalOut myled(LED1); ← LED1ピンをmyledと名付け、Output機能で使うことを宣言

int main() {
 while(1) { ← {}内を無限ループ
 myled = 1; // LED is ON ← 1 = 3.3V
 wait(0.2); // 200 ms
 myled = 0; // LED is OFF ← 0 = 0V
 wait(1.0); // 1 sec
}
```

STM32F303K8ピンアサイン



STM32F303K8ピンアサイン



目次

- mbedとは
- 使用するmbedマイコンボード
- サンプルプログラム書き込み
- PWM制御を使用したモータ速度制御
- PCとの通信

モータにかかせないPWM制御とは①

- マイコンは"0"か"1"しか入力も出力もできない (今回使用するマイコンの場合は 0=0[V],1=3.3[V])
- モータの回転数を速くしたり遅くしたりするには 電圧を細かく設定する必要がある
 - →要するに0~1の間が必要になる



モータにかかせないPWM制御とは②

- PWM = Pulse Width Modulation (パルス幅変調)
- パルス波のデューティー比を変化させて変調する変調方法です。そして、デューティー比とは周期的なパルス波を出したときの周期とパルス幅の比のことで、以下の式で表されます。

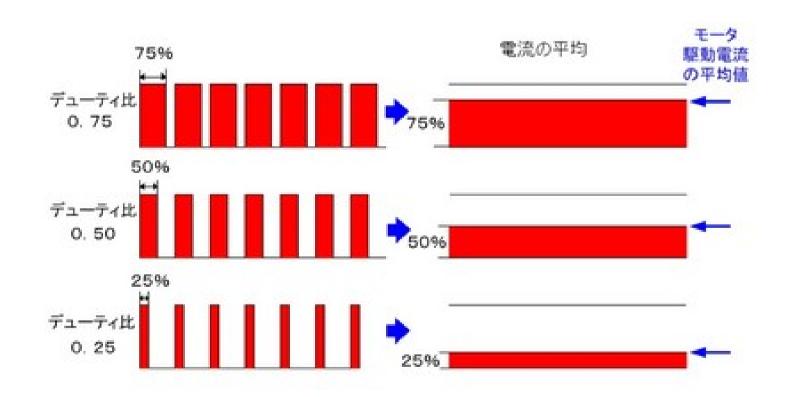
 $D = \tau/T$

D: デューティー比

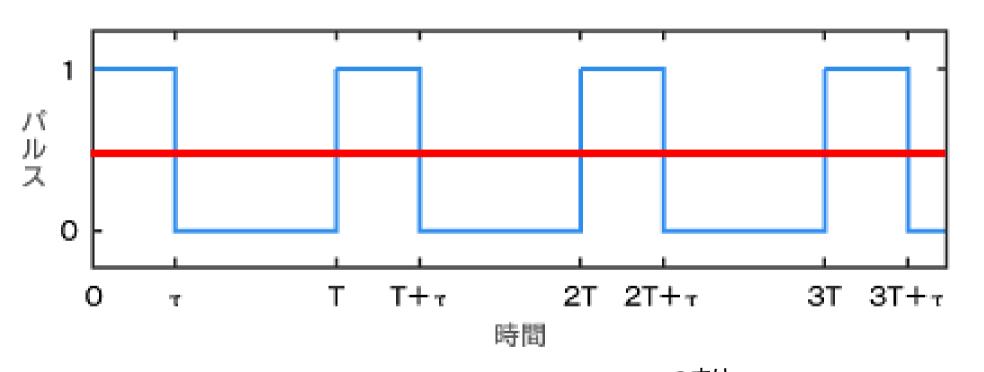
 τ :バルス幅

T:周期

1(High)と0(Low)をすばやく切り換えることで, 中間量の電流が流れているときと同じ状態を作りだせる!



PWMイメージ



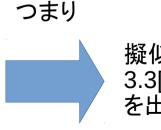
 $D = \tau/T$

D: デューティー比

 τ :バルス幅

T:周期

例えば・・・ 周期=10ms パルス幅=5ms デューティー比は0.5(50%)



擬似的に 3.3[V] ×0.5 = 1.65[V] を出している

マイコンのPWM制御だけでモータは動かせるか

A. 動かせない。なぜなら・・・

• マイコンの出せる電圧、電流は・・・ 3.3V、数mA

そこで モータドライバ を使う

モータに加えたい電圧、電流は・・・ ~9V, 2A以上

29 17/02/18

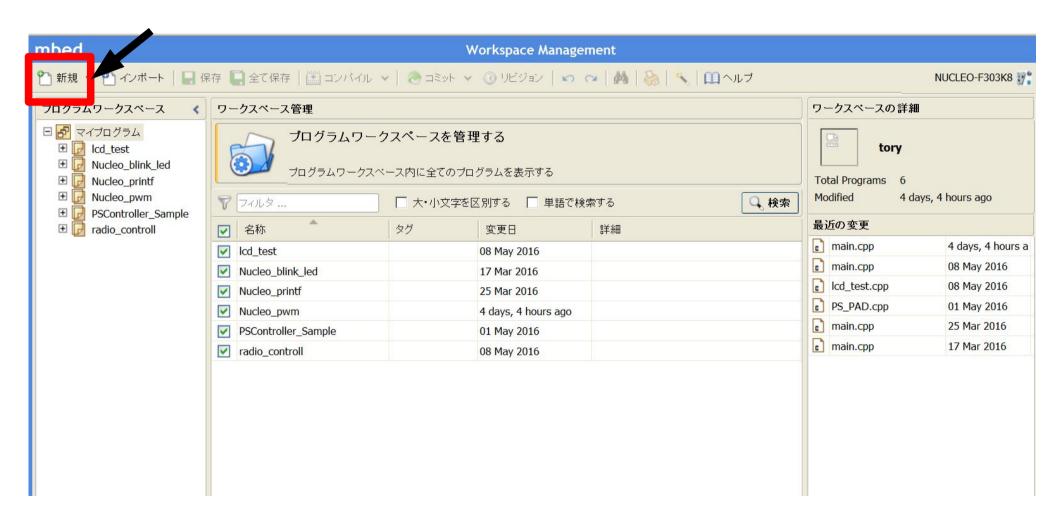
モータドライバの役割

マイコンからの入力で、電流電圧を増幅させる

正転、逆転、ブレーキ、ストップ動作などができる



①左上の"新規"→"新しいプログラム"をクリック



②テンプレート:Output a pwm signal を選択→OK



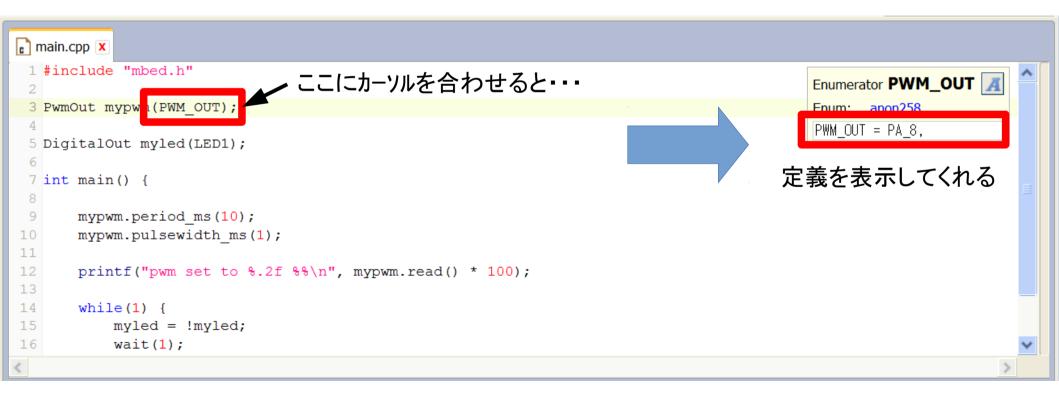
③main.cppをダブルクリック



PWMプログラム解説

```
1 #include "mbed.h"
 2 PwmOut mypwm (PWM OUT); PWM_OUTピンをmypwmと名付け、pwm機能で使うことを宣言
 3 DigitalOut myled(LED1); LED1ピンをmyledと名付け、Output機能で使うことを宣言
  int main() {
 6
      mypwm.period ms(10); PWMの周期を10msに設定
      mypwm.pulsewidth ms(1); PWMのON時間を1msに設定(デューティー比10%)
      printf("pwm set to %.2f %%\n", mypwm.read() * 100);
10
11
12
      while(1) {
13
          myled = !myled;
          wait(1);
14
                              デューディー比10%なので、
1.5
                              3.3[V] × 0.1 = 0.33[V] が出力される
16 }
```

ピン名がどのピンを指定しているかわからないときは・・・



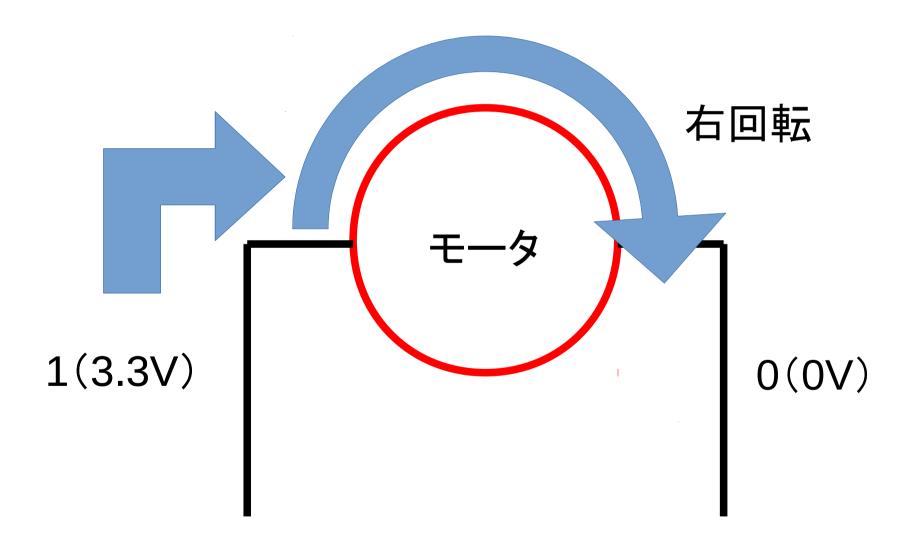
テスターで電圧を計測してみる

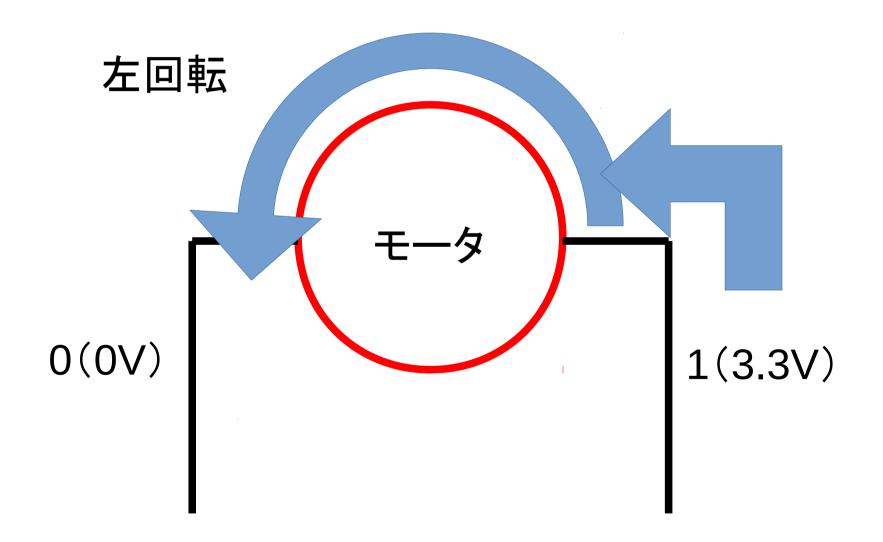
テスターの赤い方でマイコンのPA_8番ピンを、 黒い方でGNDピンを触ると、電圧が表示される

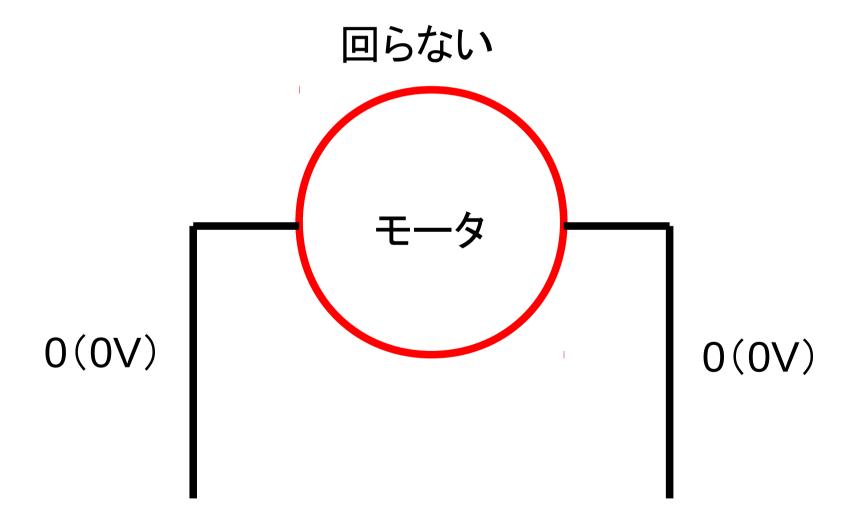
正しくプログラムが動作していれば0.3V程度が出力されているはず。

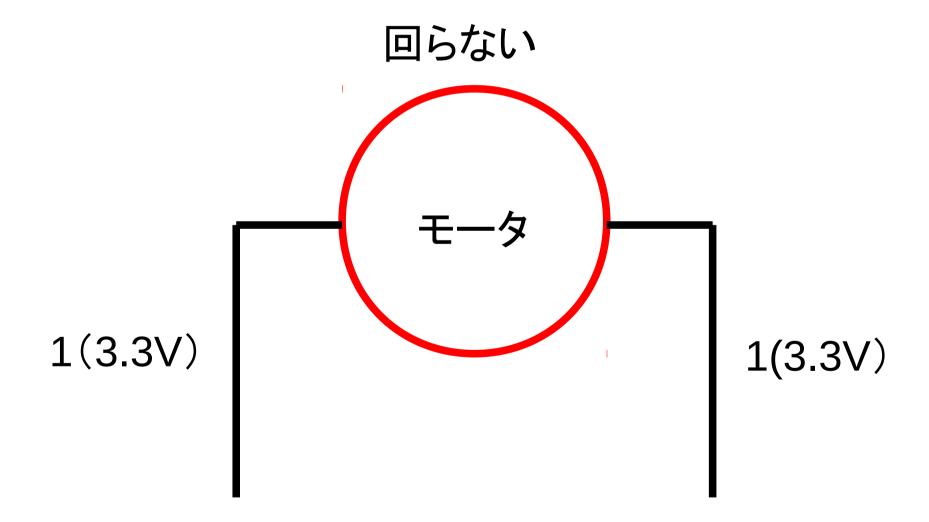
車輪ロボットのPWM制御プログラム

```
1 #include "mbed.h"
 2 PwmOut m1 cw (PA 11);
 3 PwmOut m1 ccw(PA_8);
 4 PwmOut m2 cw (PB 4);
 5 PwmOut m2 ccw(PB_5);
 6 int main() {
       while(1) {
                                 ログラム数値) = 0V~3.3V(マイコン電圧) = 0V~6V(モータ電圧)
直接デューティー比を設定可能
0~1で速度が変化する
            //pc.printf("%f\n",psd sensor);
14
                                                     ※周期を指定しない場合
15
                                                       自動で20msに設定される。
16 }
```



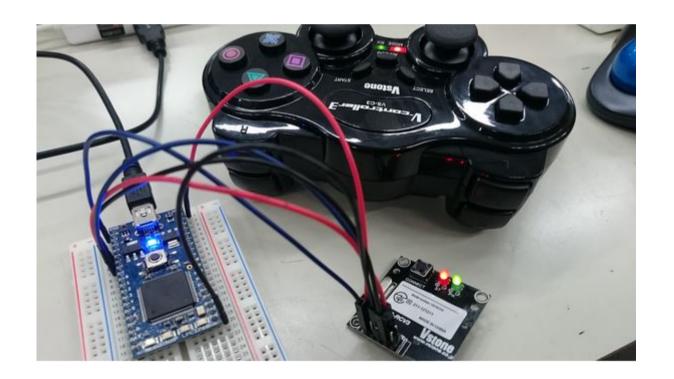




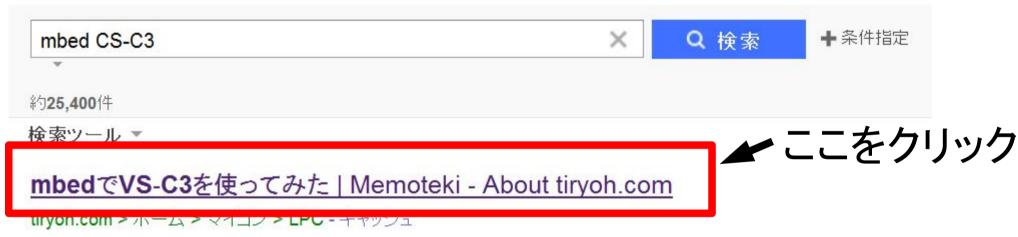


デューティー比を変更して、左右の車輪の速度が変わることを確認する

コントローラを使う



"mbed VS-C3"で検索



2015年9月24日 - mbedでvstoneのコントローラVS-C3を使ってみました。その使い方をメモ。この コントローラはPS2のコントローラ(DUALSHOCK2)と(信号の)互換性があるので DUALSHOK2でも同様にmbedで扱えると思います。 利用するライブラリ ...

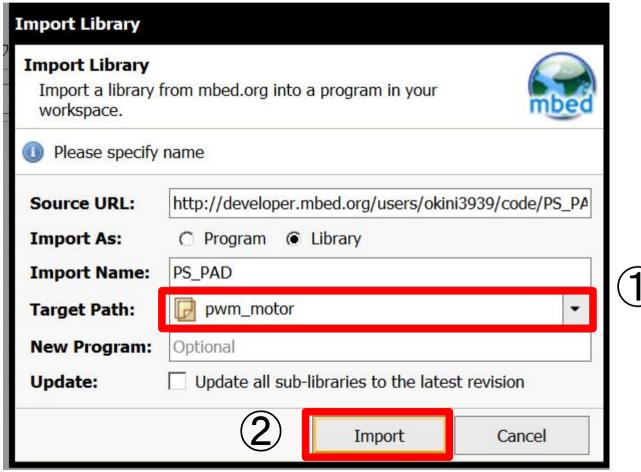
以下のリンク先をクリック



"Import into Compiler"をクリック

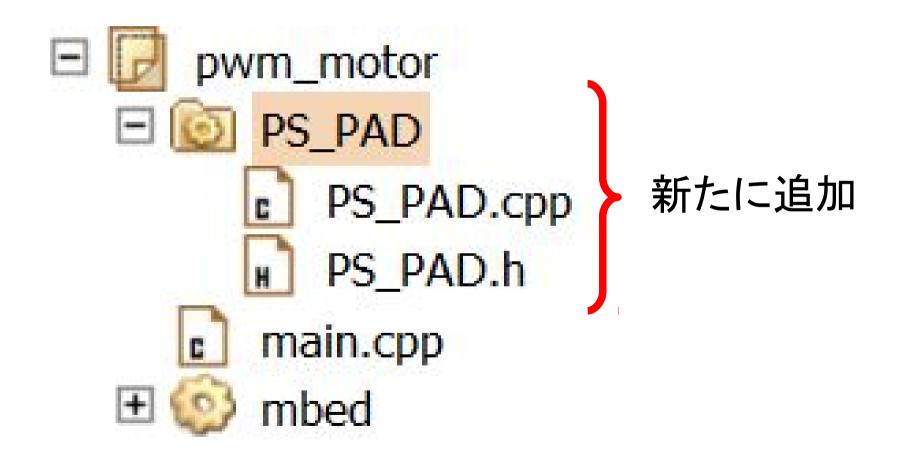


Terget pathを指定し、Importをクリック





ライブラリがインホ°ートされていればOK



コントローラフ゜ログラム作成

```
1 #include "mbed.h"
 2 #include "PS PAD.h" ◀── ライブラリ読み込み
 3.
 4 PS_PAD vsc3(PA_7, PA_6, PA_5, PA_4); <del>◀  通信ピン番号指定</del>
 6 PwmOut m1 cw(PA 11);
 7 PwmOut m1 ccw(PA 8);
                           ─ PWM出力ピン指定(モータ)
 8 PwmOut m2 cw(PB 4);
9 PwmOut m2 ccw(PB 5);
10
11 float r_y = 0,1_y = 0; ▼ アナログスティック値用変数
12 int start_signal =0; 		── STARTボタン認識用変数
13
14 int main() {
      vsc3.init(); ◄ コントローラー初期化関数
15
16
      while (1) {
17
         vsc3.poll(); ◄── コントローラー初期化関数
         if (vsc3.read(PS PAD::PAD START) == 1)start signal = 1; 		── STARTボタンで開始
18
         if (start signal == 1) {
19
         r_y = vsc3.read(PS_PAD::ANALOG_RY); _ STARTボタン押されたら、読み込み開始
2.0
2.1
         l y = vsc3.read(PS PAD::ANALOG LY);
                                              (r y,l yにコントローラからの値が入力される)
2.2
23
         wait(0.05); 		 0.05秒待つ(正常に通信するために必ず必要)
2.4
      }
25 }
```

```
1 #include "mbed.h"
 2 #include "PS PAD.h"
 3.
 4 PS PAD vsc3(PA 7, PA 6, PA 5, PA 4);
 6 PwmOut m1 cw(PA 11);
 7 PwmOut m1 ccw(PA 8);
 8 PwmOut m2 cw(PB 4);
9 PwmOut m2 ccw(PB 5);
10
11 float r v = 0, 1 v = 0;
12 int start signal =0;
13
14 int main() {
15
      vsc3.init();
16
      while (1) {
17
          vsc3.poll();
18
          if (vsc3.read(PS PAD::PAD START) == 1)start signal = 1;
           if (start signal == 1) {
19
20
          r y = vsc3.read(PS PAD::ANALOG RY);
           1_y = vsc3.read(PS_PAD::ANALOG_LY);
21
22
23
          wait (0.05);
                          ※ r_y,l_yにコントローラからの値が入ってくるので、PCに表示させたい
24
       }
25 }
```

コントローラからの値を表示する

```
1 #include "mbed.h"
 2 #include "PS PAD.h"
  Serial pc(PA_2, PA_3); ◀── 追加(ピン指定, PA_2,PA_3はUSBに接続されている)
 5 PS PAD vsc3(PA 7, PA 6, PA 5, PA 4);
 7 PwmOut m1 cw(PA 11);
 8 PwmOut m1 ccw(PA 8);
 9 PwmOut m2 cw(PB 4);
10 PwmOut m2 ccw(PB 5);
11
12 float r y = 0,1 y = 0;
13 int start signal =0;
14
15 int main() {
16
      vsc3.init();
17
      while (1) {
18
          vsc3.poll();
19
          if (vsc3.read(PS PAD::PAD START) == 1) start signal = 1;
          if (start signal == 1) {
20
21
          r y = vsc3.read(PS PAD::ANALOG RY);
22
          l y = vsc3.read(PS PAD::ANALOG LY);
23
24
          wait(0.05);
25
      pc.printf("%f %f\n",r_y,l_y);
                                           追加(PCにr_y,l_yを表示させる)
26
27 }
```

PCとの通信

センサやモータなどの値を PC画面に表示させて確認したい

ダウンロードするもの

Windowsの場合
 STLINK Driver
 Teraterm(ネットから検索してダウンロードしてください)

Macの場合 特になし(標準で入っている"ターミナル"を使用します)

ST LINK Driverダウンロード~インストール (windowsのみ)

①以下サイトにアクセス http://www.st.com/en/embedded-software/stsw-link009.html

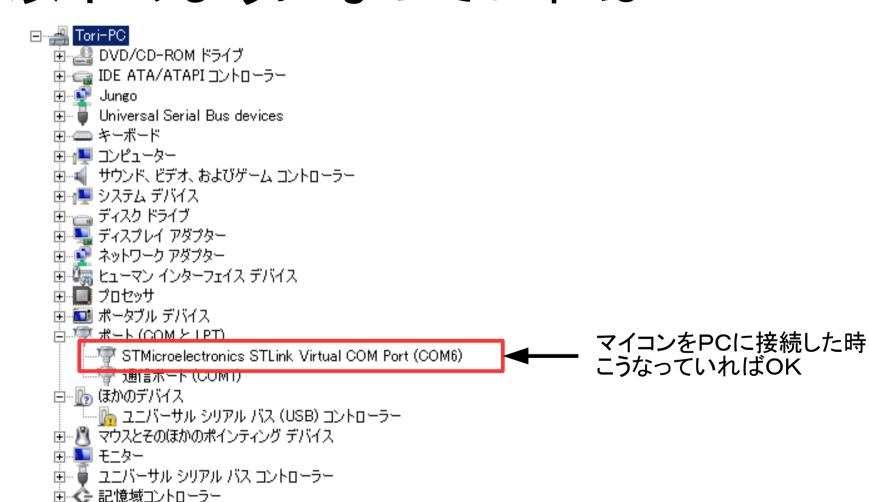
② get softwareをクリック

GET SOFTWARE

Part Number ^	Software Version	Marketing Status	Supplier \$	Order from ST
STSW-LINK009	1.02	Active	ST	Get Software

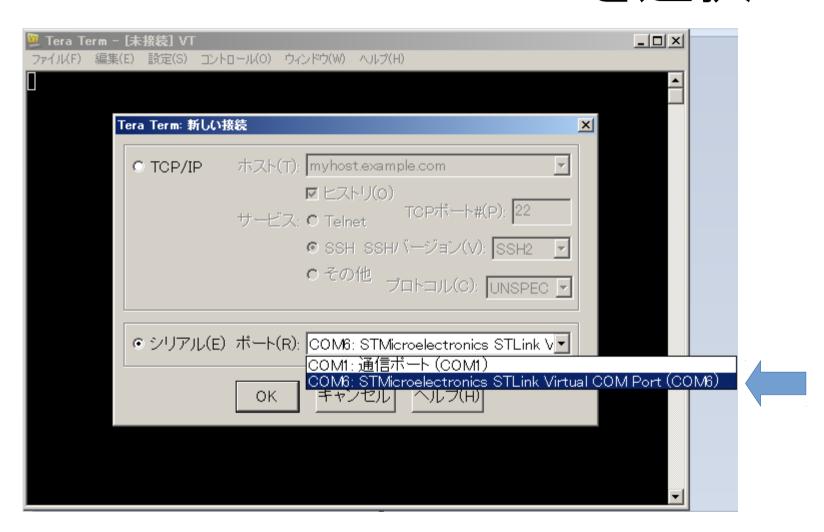
③アカウントを登録してダウンロード、インストール x86が32ビットPC用 x64が64ビットPC用

コントロールハ°ネル→デバイスマネージャで 以下のようになっていればOK

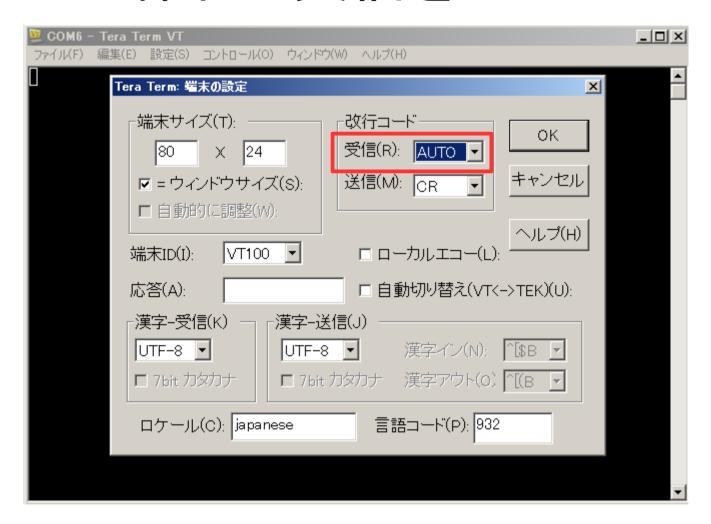


TeraTerm使い方 (windowsのみ)

STMicroelectronicsを選択



改行が正常に行えないため、 設定タブ→端末→受信を"AUTO"に設定



設定タブ→設定の保存



プログラム

- pc.printf("%~",表示させたい変数);

ターミナルソフトを使って、 値の変化を確認する

```
COM6 - Tera Term VT
                                                                              ファイル(F) 編集(E) 設定(S)
                     - コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 128.000000 -1.000000
-128.000000 127.000000
128.000000 127.000000
128.000000 110.000000
-1.000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 .000000 -1.000000
 1.000000 -1.000000
1.000000 -1.000000
60.000000 127.000000
-128.000000 127.000000
128.000000 127.000000
-128.000000 127.000000
-128.000000 127.000000
-1.000000 -1.000000
```

コントローラからの値の変化に応じて 車輪速度を制御してみよう

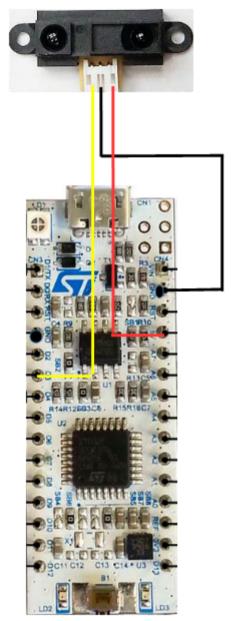
```
1 #include "mbed.h"
2 #include "PS PAD.h"
4 Serial pc(PA 2, PA 3);
5 PS PAD vsc3(PA 7, PA 6, PA 5, PA 4);
7 PwmOut m1 cw(PA 11);
8 PwmOut m1 ccw(PA 8);
9 PwmOut m2 cw(PB 4);
10 PwmOut m2 ccw(PB 5);
12 float r y = 0, 1 y = 0;
13 int start signal =0;
14
15 int main() {
     vsc3.init();
     while (1) {
         vsc3.poll();
         if(vsc3.read(PS PAD::PAD START) == 1)start signal = 1;
         if(start signal == 1) {
20
         r y = vsc3.read(P% PAD::ANALOG RY);
2.1
                                                 ヒント
         1 v = vsc3.read/
                                                  ・このへんに追加
23
24
         wait (0.05);
                                                  •r y,l yの変化によって、車輪速度を変える
      pc.printf("%f %f\n",
                                                  •車輪の速度を変えるにはPWM制御を使う
26
27 }
```

車輪ロボットのPWM制御プログラム

```
1 #include "mbed.h"
 2 PwmOut m1 cw (PA 11);
 3 PwmOut m1 ccw(PA_8);
 4 PwmOut m2 cw(PB 4);
 5 PwmOut m2 ccw(PB 5);
 6 int main() {
       while(1) {
                                 ログラム数値) = 0V~3.3V(マイコン電圧) = 0V~6V(モータ電圧)
直接デューティー比を設定可能
0~1で速度が変化する
           //pc.printf("%f\n",psd sensor);
14
                                                     ※周期を指定しない場合
                                                       自動で20msに設定される。
16 }
```

PSDセンサを使った衝突回避

配線図



* 赤と黒の線に注意しながら配線

プログラム

```
1 #include "mbed.h"
2 #include "PS PAD.h"
4 Serial pc(PA 2, PA 3);
 5 PS PAD vsc3(PA 7, PA 6, PA 5, PA 4);
7 PwmOut m1 cw(PA 11);
8 PwmOut m1 ccw(PA 8);
9 PwmOut m2 cw(PB 4);
10 PwmOut m2 ccw(PB 5);
11
12 AnalogIn left(PA 0);
13 AnalogIn center (PA 1);
14 AnalogIn right (PB 1);
15 AnalogIn psd(PB 0);
                     │←変更点①センサからのアナログ電圧入力ピン番号指定
17 \frac{\text{float r y = 0,l y = 0;}}{}
18 double psd sensor;
                     ←変更点②センサ値用の変数宣言
19 int start signal =0;
38 int main() {
39
      vsc3.init();
40
      wait (0.001);
      while (1) {
41
42
43
          psd_sensor = psd; ←変更点③代入(psd_sensorにセンサからの値が入力される)
```

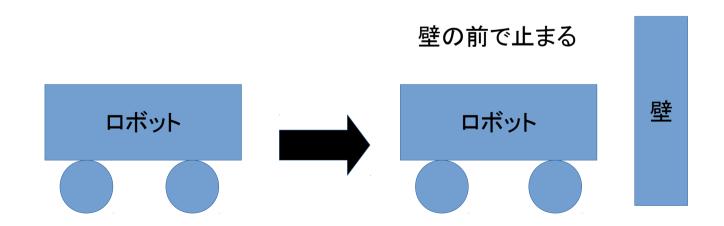
PSDセンサからの値を使って 衝突回避させてみる

ヒント①:

PSDセンサの値をPCに表示し,壁に近づいた時の数値を確認する

ヒント②:

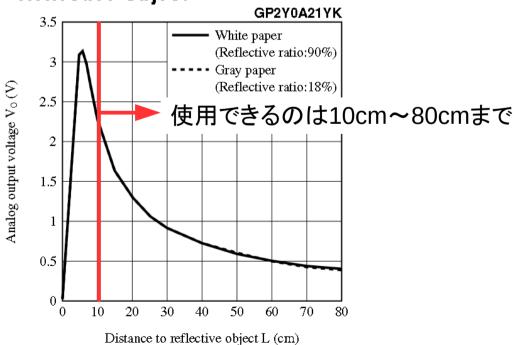
壁に近づいたら車輪速度を0にする



ヒント③:

・10cm以下は使用できない (同じ距離を示す数値が2つ存在してしまうため)

Fig.5 Analog Output Voltage vs. Distance to Reflective Object



Icdディスプレイを使う

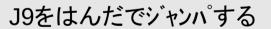


準備するもの

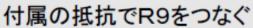
- Icd(P-04794)
- スペーサ(P-01861)
- 2×7ヘッダピン×2
- 2×7リボンケーブル(C-02489)
- 半固定ボリューム10KΩ 10個入り(P-02470)

回路図



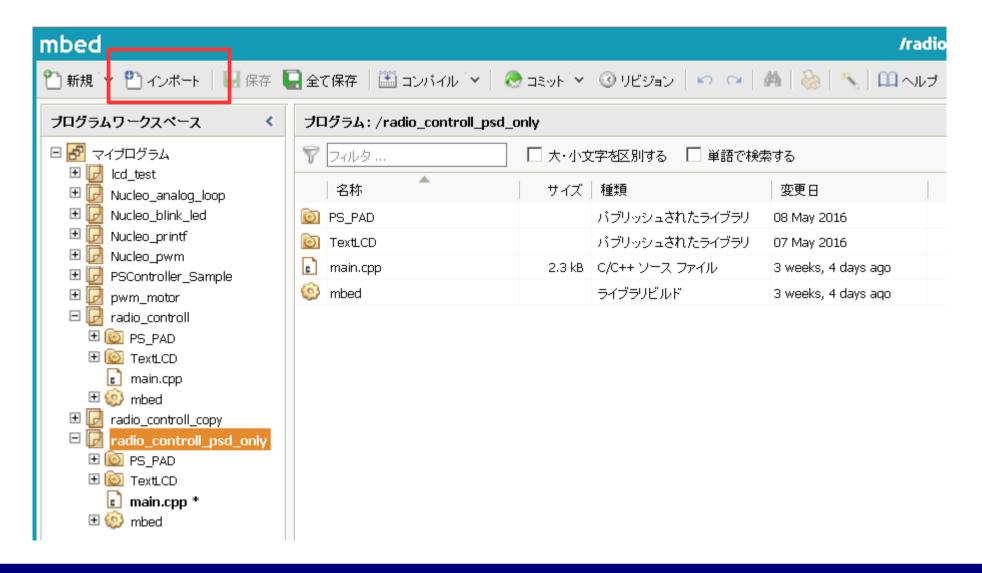






LCDライブラリのインポート

インポートをクリック



ライブラリタブを選択



"TextLCD"で検索



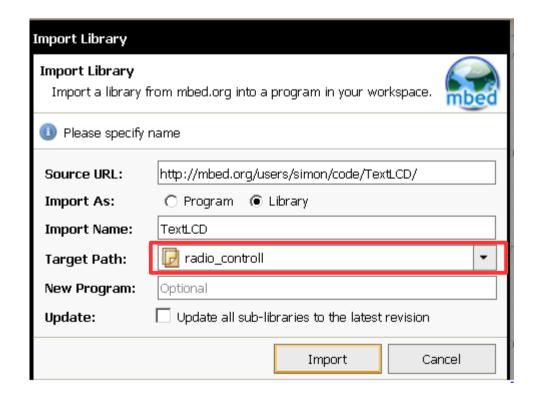
名称:TextLCD,作成者:SimonFord のライブラリを選択



右上のインポートをクリック



インポート先のプログラムを選択し、 Importをクリック



LCD表示サンプルプログラム

```
#include "mbed.h"

#include "TextLCD.h"

TextLCD g_lcd(PF_1, PF_0, PB_3, PA_10, PA_12, PA_9); // RS, E, DB4, DB5, DB6, DB7

int main() {

while(1) {

g_lcd.locate(0, 1);  1段目に表示させたいときは(1,0)

g_lcd.printf("hello");

}
```

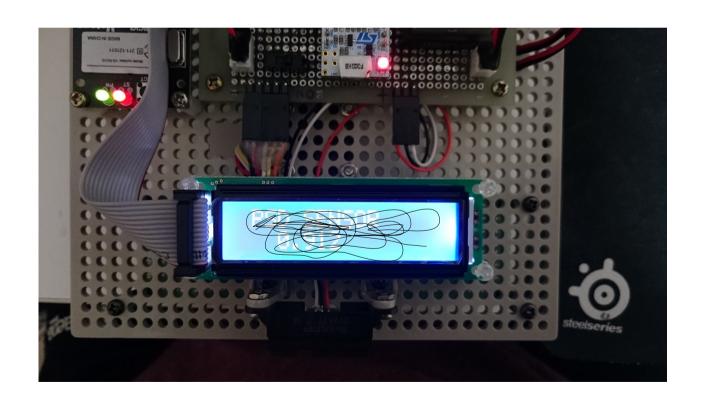


PSDセンサ値をLCDに表示させてみよう

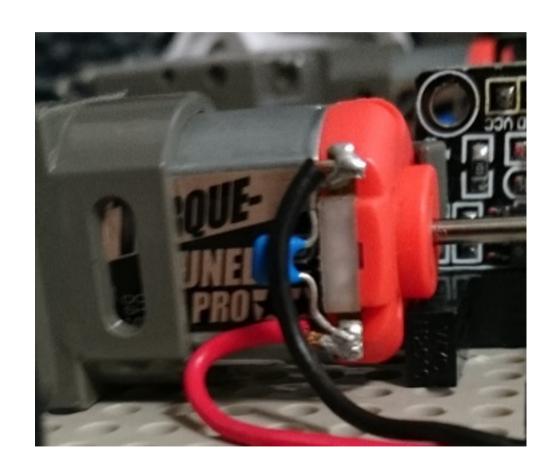
```
g_lcd.locate(0, 1);
g_lcd.printf("%f", psd_sensor);
g_lcd.locate(1, 0);
g lcd.printf("PSD SENSOR");
```



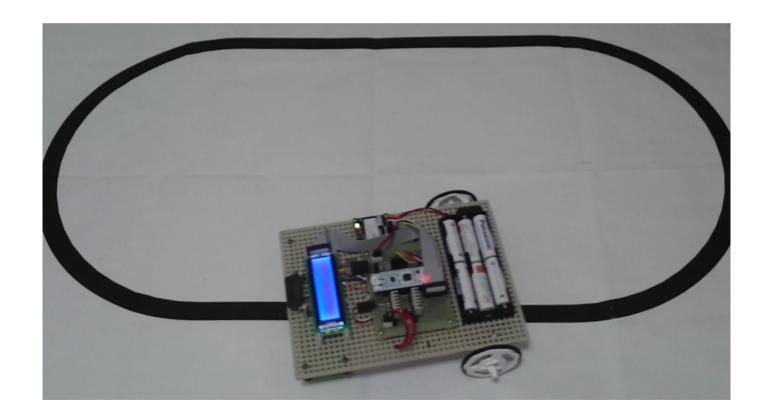
モータを動かすと、Icdディスプレイがバグる →原因はモータから発生するノイズ



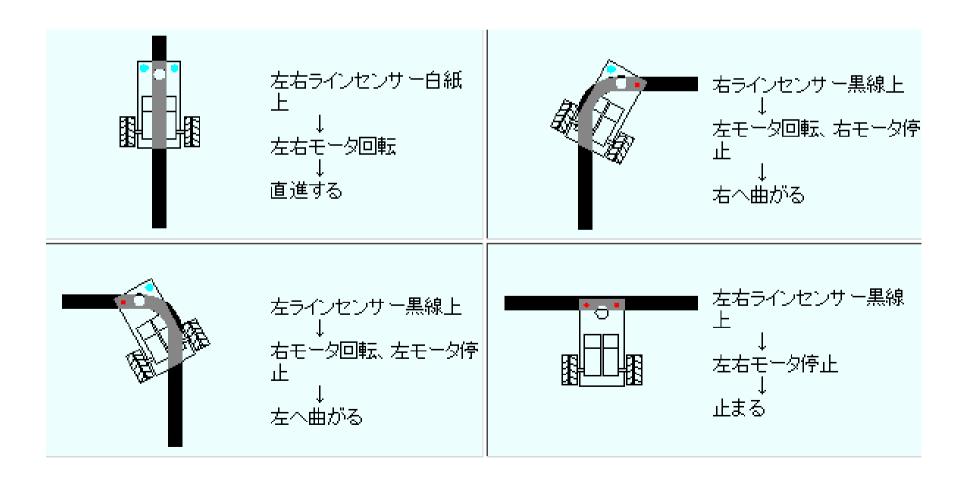
モータにセラミックコンデンサをはんだづけして再度、Icdディスプレイを確認してみる



ライントレースロボットをつくる



ライントレース動作



ライントレースの原理

